

日本の政治を考える

# 占領と 戦後日本

**日時** 7月23日(土) 13時～15時(12時開場)

**場所** 獨協大学 天野貞祐記念館大講堂  
東京メトロ日比谷線・半蔵門線直通 東武スカイツリーライン「松原団地駅」西口徒歩5分 \*車でのご来校はご遠慮ください

**受講** 無料 定員500人 当日先着順  
事前申込不要

戦後70年が過ぎ、あらためて戦後とは何か、戦後体制とは何か、そして国際社会のなかでの日本のあり方が問われています。他方で戦後生まれの人口が一億人を超え、人口の約八割を占めるまでになった今、「70年前」は確実に遠い時代になりつつあります。

しばしば日本国憲法と日米安全保障条約は、相対立するものとして語られて来ました。いずれも占領期に生まれ、よかれ悪しかれ戦後日本の骨格をつくって来ました。それほどどのようにして生まれ、わたしたちはどうとらえて来たのでしょうか。この国の来し方をたどり、あらためて戦後を自分たちのものとして考え、日本政治の現在と未来を考えてみましょう。

歴史のとびらを開くとき、歴史の神クリオはわたしたちにどのような顔を見せるのでしょうか。



ふくなが ふみ お  
**福永 文夫**  
獨協大学法学部教授

1953年兵庫県生まれ。76年神戸大学法学部卒業、85年神戸大学大学院法学研究科博士課程単位取得満期退学。2001年から獨協大学教授。博士(政治学)。専攻、日本政治外交史・政治学。

著書「占領下中道政権の形成と崩壊—民政党と日本社会党」(岩波書店、1997年)  
「大平正芳—「戦後保守」とは何か」(中公新書、2008年)  
「日本占領史1945-1952—東京・ワシントン・沖縄」(中公新書、2014年)  
第16回読売・吉野作造賞受賞  
「第二の「戦後」の形成過程—1970年代日本の政治的・外交的再編」(有斐閣、2015年)  
共編「戦後とは何か—政治学と歴史学の対話」(丸善、2014年)  
共著「戦後日本 第2巻 占領と改革」(岩波書店、1995年)  
「戦後日本の宰相たち」(中央公論社、1997年)

2016年度

## 獨協大学オープンカレッジ特別講座

獨協大学エクステンションセンター

☎048-946-1678

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

共催・草加市